

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171500499), 法人名 (社会福祉法人 七飯町社会福祉協議会), 事業所名 (グループホームひだまりの家1), 所在地 (亀田郡七飯町字中野210-2), 自己評価作成日 (令和5年1月21日), 評価結果市町村受理日 (令和5年7月12日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症対策が優先とされる状況において、基本理念である、その人の想いを大切に、穏やかで、安心して、皆で共助し暮らす事を念頭に置き、入居者様の尊厳を大切にしながら、日々の関わりを丁寧、職員が共有の認識を持つことに努めております。コロナ禍の為、様々な制限の中、可能な限り、安らぎのある日常と良質なサービスの提供を目標にさせていただいております。今後、感染症対応についての緩和がなされた際には、通例の行事や地域とのふれあいを再開し、入居者様やご家族様にとっても、より豊かなグループホームでの生活となるよう、職員一同、尽力してまいりたいと思います。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171500499-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年2月18日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、七飯町中心部から離れた豊かな畑に囲まれた農業地区に立地している。建物は変則的な2階建てで、2ユニット18名の高齢者が生活を共にしており、他に建物に併設されているデイサービスと居宅事業所を事業展開している。運営は七飯町社会福祉協議会で、培ってきた福祉の経験を十分に活かした事業所として介護保険施行初年の2000年に開設された。管理者は、事業所理念のもと、原則に徹した介護方針と実践に努めており、運営推進会議や地域行事を通して認知症への理解を周囲に勧め、職員に対しては、良質なサービス提供を目標に資格取得を支援する等、介護職員の基盤整備に取り組んでいる。また、身体拘束委員会を定期的に開催し、拘束、虐待はあってはならない事として、職位・経験年数に関わらず日々のケアの検証、内部研修に努めている。コロナでの制限が緩和される今春以降は、利用者の希望する場所への外出、地域や事業所行事の再開、地域との協力体制の再構築等、職員間で計画している事から、その進展が望まれる。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を廊下や事務所、個人ネームプレートに掲示、日常的に意識し、スタッフ間で共有を図り、実践につなげている	事業所の理念を玄関に掲げ、利用者や家族、職員に示している。また、会議や日々のミーティングで確認し合い、「その人の想いを大切に、穏やかに、安心して、皆で共助し暮らす」ためのケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば、地域ボランティアの受け入れや地域行事への参加を行っていたが、コロナウイルス感染予防の為地域の方々となかなか交流ができませんでした	町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、災害時の相互の協力体制の確認や地域との交流、事業所の近況の周知等、個別のボランティアの受け入れ等、関係維持の方法について職員間で協議・実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通常では、運営推進会議や家族会等の際に地域の方々へ伝えているが、コロナ対策の為書面を活用している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナ感染防止の為書面にて現況報告等行っている	現在は書面での開催としているが、通例では家族、町内会代表、行政に参加、協力を得て定例で開催している。会議内容は書面報告し、委員からの意見を聴取し、利用者家族、職員に周知することでサービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課や包括支援センターとの連携を行っている	町の福祉課、地域包括支援センターからは、主に運営推進会議や電話で助言、指導を得ている。また、事業所の運営状況等の情報交換を行い、開かれた事業所作りにも努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を書面にて開催し、不適切なケアをしていないか確認、抑制や拘束のないケアに努めている	身体拘束委員会を指針の基に3ヶ月毎に開催し、利用者の介護について現状では適正か否かを検討している。また直近の会議や申し送り時に職員に周知し、拘束も抑制もない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加、職員間の声かけ、ケアが虐待にあたっていないか常に意識し、業務を行っており、日々状態観察を行い、虐待が見過ごされないよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加等で学ぶ機会を持ち、書面にて各職員へ周知、制度の理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はわかりやすく丁寧に説明を行い、理解・納得を得た上で締結をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時等に意見や要望を伺い、運営に反映できるようにしている	個別のお便りを送付し、写真を交えて生活の様子、体調面等を伝えるとともに、積極的に意見・要望を聞き取り、運営に活かしている。また、利用者家族へ満足度アンケートを評価機関を通じて実施し、意見の集約、反映に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に、または個人面談の際に意見や提案を聞き、反映に努めている	定期の会議や日々の申し送りで、職員からの意見を募り、提案を受けている。意見等を遅滞なく反映できるよう個別面談の設定等、積極的に臨んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の現況を把握、評価し、就業の環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価シートの活用や面談、日々の業務等を評価し、個々の力量を把握、育成への取り組みを図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為ウェブや資料を通じて、情報収集・交換がなされ、サービス向上へ向けて取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人が希望・必要とすることを傾聴・共感し、信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の意向を聞いて、ケアの方向性を導き出し、信頼関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にアセスメントを行い、必要な支援を見極め、対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事を探し、日常的な家事作業と一緒にいき、感謝や尊敬の意を伝え、共に暮らしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場を尊重しながら、ケアの方向性を相談したり、協力をいただき、連携を取っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策の為、制限はあるが、可能な範囲で関係性の継続に努めている	コロナ禍で外出困難だが、馴染みの場所や友人、家族との時間を大切に支援し、生活歴の把握に努め、電話や手紙の取り次ぎ等で、今までの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係性に配慮し、席を配置、入居者同士スムーズな関わりを得られるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、電話での相談や連絡支援を行ったり、逝去時にお見送りをさせていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、話しやすい雰囲気を意識し、本人の思いを聴き、表情や仕草から、希望や意向を把握するよう努めている	日々寄り添いながら支援しており、好き嫌い含めて思いの把握に努めている。困難な場合は、生活歴や家族からの聞き取りで、意向に沿えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネージャー等から情報を収集し、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の身体状況や生活リズムを把握し、表情や行動から、有する力を見極め、現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ対策の為、日々の送りや書面で意見交換し、計画を作成している	担当職員が利用者の介護計画に基づき、日常生活等を日々の介護記録を用いて確認している。病変等の場合は適切に対応し、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に加えて、送りや連絡ノート、モニタリング、アセスメント表を活用し、職員間での情報共有を行い、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応し、受診や移送車利用等、柔軟かつ最適なサービスの提供に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ対策の為、地域ボランティアの受け入れは行っていないが、今後の動向により検討したい		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の継続受診を支援したり、往診対応も実施、相互に情報提供し、支援している	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、提携医療機関、配置の看護師から指示、助言を受けながら、職員は支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化や異変時には、看護師へ状態報告し、指示を受け、対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、職員が同行、医師面談時は家族の了承を得て同席し、今後の方向性について相談できる関係づくりをしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、事業所の指針について説明を行い、本人と家族の意向確認をして、支援の提供に努めている	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ており、家族と終末期を支えるための話し合いを重ねている。協力医療機関との連携と看護師の配置があり、家族、職員の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置、マニュアルにて対応を確認している。コロナ禍の為、救急救命講習は行っていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施、災害時の備蓄品や発電機を準備、随時確認を行っている	避難訓練は年2回、消防署の指導の下、地域の方や家族の協力を得て定例で実施している。防火点検も定期的に行い、発電機や備蓄、冬期の対応として暖房器具も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、適切な声かけや対応に心掛けている	利用者の人格の尊重とプライバシーの確保は、声掛けを基本として注意し、人格やプライバシーを損なわないよう職員が一丸となって取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で、本人の思いや希望を引き出せるよう、また、出来るだけ自己決定しやすいよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合優先にならないよう個々の体調やペースを考慮し、本人の希望にそえるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服など一緒に選んだり、訪問理容の利用を支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事・時節に合ったメニューや誕生日には本人の希望するメニューを提供、個々の力量に応じたお手伝いを行っていただいている	食事は職員が希望や旬を取り入れて献立を作っており、調理や後片付けには希望する利用者にもお願いし、明るく楽しい食卓になるよう務めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて、食事形態や量、食器を工夫、調整し支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合った声かけ、見守り、介助を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけ、定時誘導、見守り等個々に合わせた対応を行い、排泄用品についても工夫をしている	排泄は、おむつ使用者であってもトイレにて排泄することを基本とし、またパット類も、本人の適性に合わせて利用する事としている。乳製品や水分、軽い体操も取り入れ、自然な排泄となるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食事、十分な水分補給、毎朝牛乳やヤクルトを提供したり、テレビ体操等の軽運動で予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回程度、一人ひとりの体調や状態に合わせて、柔軟に対応している	毎日お湯はりを行い、いつでも誰もが入浴できる体制を維持しており、一人ひとりが週に2回以上の入浴を目標に努めている。入浴拒否者には無理強いすることなく、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣を踏まえ、個々の体力・体調を考慮しながら、日中の活動を促し、生活リズムを整え、安眠につながるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方内容を綴り、共有、見守りや介助にて確実に服薬できるよう支援しており、状態変化の際は即看護師や主治医に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別対応にて、お手伝いやレクリエーション活動に楽しく、張り合いを持って参加できるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、可能な範囲で外気浴を行ったり、季節の草花に触れて、気分転換になるよう支援している	季節のドライブの他、個別に声掛けて日課として出歩くように努め、季節を感じたり、敷地近隣の散策等、体調や天候を考慮しながら、閉じこもらない介護に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理で預り金として保管し、受診時等に支払いを支援、家族に確認していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と手紙のやり取りをされている方の支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ対策を含め、定期的な換気や消毒を行い、室温・湿度に配慮しており、四季に適した飾り付けを工夫し、快適な空間づくりに努めている	建物の全体が広い造作で、廊下やリビングもゆったりとしており、採光や風通しも良く、居心地のよい共用空間となっている。リビングからは庭が眺められ、花壇もあり、季節を感じる工夫が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席等好きな場所で気兼ねなく、雑誌を見たり、音楽を聞く等落ち着いて過ごせる居場所の工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が愛着のある家具や食器等を持参・配置し、居心地よくつづげるよう工夫している	居室には、昔から親しんだタンスや椅子等の馴染みの家具が配置され、温度や湿度も適正な環境の中で、壁には家族写真も見られるなど、自分の部屋として過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すり使用で安全に移動できるよう配慮し、居室やトイレに表示をして、自立支援に努めている		